

令和6年度 浦和区自治会連合会会長講習会 報告書

1 日時 6年6月25日（火） 午前10時から11時45分まで

2 場所 浦和区コミュニティセンター 9階 第15集会室

3 出席者

藤枝会長・高橋副会長・石井副会長 他会長41名で計44名の出席であった。

4 会長講習会の概要

(1) 司会の石井桂太郎副会長が開会を宣言した。

(2) 会長あいさつ

藤枝会長から出席のお礼と、本日の講習会は浦和の将来のまちづくりの講座で、浦和区の自治会とも関わりのある内容なので有意義な講習会にしてもらいたいとの挨拶があった。

(3) 講座

本日の講習会は2部構成で、1部が都心整備課による「浦和及びさいたま新都心のまちづくり」、2部が都市経営戦略部による「新庁舎整備及び現庁舎地利活用の検討状況」の講座で、パワーポイント及び資料を配布して説明を行った。

① 「浦和及びさいたま新都心のまちづくり」については、都心整備課の秋元課長が説明を行った。まず「浦和駅周辺まちづくりビジョン」について、概ね30年後を目標に浦和のまちの特長を踏まえた指針を策定している。また、まちづくりの展開としては浦和駅周辺から北浦和駅、また現市役所から駒場スタジアム周辺まで含めた幅広い範囲でまちづくりを展開していくとのことであった。また、現在工事着手している「浦和駅西口高砂地区第1種市街地再開発事業」についても詳細な説明があった。

② 「新庁舎整備及び現庁舎地利活用の検討状況」については都市経営戦略部の田中副参事が説明を行った。令和4年度にさいたま新都心バスターミナルほか街区に移転が決定し、その後、整備の基本方針、事業手法、概算事業費、今後のスケジュール等の説明があり、令和13年を目途にさいたま新都心に移転するとのことである。また、移転後の現庁舎地利活用の検討は、都心整備課から説明のあった「浦和駅周辺まちづくりビジョン」で示される将来像の実現に向け検討を進めている。4つの基本理念（①「県都」「文教都市を象徴」②まちづくりに貢献③豊かな生活につながる④本市の更なる飛躍）を踏まえ、市民サービスの拠点である浦和区役所や浦和消防署の機能を残し、教育・先進研究機能、文化芸術機能、市民交流機能を基本に検討を具体化していくとのことである。また、具体化の過程にあたり、環境、防災、地区交通の3点について配慮すべき事項として検討していくとのことである。

(4) 質疑応答

- ・領家1丁目自治会の世古口会長より、大宮駅西口再開発の「門街」であるが、テナントの空きがあること、レイブロックホールが使いにくい、トイレがわかりにくい、WiFiが使えない等大変残念な再開発ビルである。浦和駅西口再開発は大宮の「街門」と同じようでは困るので真剣に考えてもらいたいとの質問があった。

→ご意見を踏まえ参考にしてまいりたい。

- ・領家4丁目自治会の遊馬会長より、浦和のまちづくりビジョンは浦和駅周辺だけではなく浦和区全体なのか、防災の件で、帰宅困難者の受け入れは市民会館で受け入れるのか、また防災備品の備蓄はあるのかとの質問があった。

→浦和のまちづくりビジョンは先に説明したとおり浦和駅周辺のみならず、南は別所沼周辺から広域で考えている、防災備品等の備蓄はされているが詳細は不明なので調査しておく。

- ・常盤5丁目自治会の小野寺会長より、旧市民会館は取り壊しているが、跡地利用計画と今後のスケジュールをお答え願いたい。

→具体的な話は未定と思われるが、所管課に話をしてみたい。

- ・木崎自治会の小川会長より、新庁舎整備の基本方針にある防災中枢拠点として災害に対応できる庁舎とあるが、周辺の国の機関、県のスーパーアリーナ等との広域防災拠点の連携はどのようになっているのか、国、県ともに連携した庁舎にしてみたいとの質問があった。

→調整はしているところであるが、全体的に手当てができていない状況であると思われるので、ご意見を参考に検討してみたい。

- ・高砂2丁目自治会の高橋会長より、現在の浦和駅中央口にある地下道を西口南再開発ビルと直結してもらいたいとの要望書を提出している。また、地下道は災害時の帰宅困難者の受け入れに役立つと思われるが、市の見解を伺いたいとの質問があった。

→事業計画の段階で住民説明をしているので、現時点では地下道をつなげることは困難であると思われる。

5 閉会

高橋副会長が閉会の宣言をした。

令和6年7月2日 浦和区自治会連合会 副会長 石井桂太郎